

別記様式

令和5年度学校評価報告書

令和6年（2024年）3月7日

北海道教育委員会教育長 様

北海道足寄高等学校長 渋谷 圭

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1 学びに向かう態度を醸成し、体験活動を通じて社会貢献に資する課題解決能力を育む。
2 自他尊重の視点を持ち、礼法等基本的な生活習慣を確立に資する自己管理能力を育む。
3 学びで得たメタ認知を活用し、自身の考えの構築や伝達に資する情報発信能力を育む。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・ClassroomなどICTを活用した課題配信、回収等をタイムリーに行う機会が増えた。ただし、それが家庭学習に繋がっているかどうかの検証が必要である。 ・探究活動を取り入れた授業方法への転換期だが、教員個々の取組に温度差がある。 ・「教科横断的な学び」に係る校内研修を実施した。教科合同授業や探究活動に前向きな感想を得られた。	・進路希望に応じた高校生活（教科科目の学習・生活・探究活動・進路希望実現に向けた主体的なキャリア発達）を送るための相談機能を高めることが求められる。 ・今後ICTの活用をますます促進するよう研修と実践を積むことが求められる。
改善方策	・校内研修はICTの友好活用を含めて継続して進める。 ・単元別テスト等の実施によるきめ細かな評価方法やの導入や、スタディサプリを十分に活用した個別最適な学びの促進を図る。 ・塾における進路相談機能は高い。高い目標を持つ生徒の目標値を下げないこと・基礎学力向上を図ることを目標に提供・共有する情報の質を上げていく。	
生徒指導	・SNSを媒体とした問題行動が発生した。クラス・学校全体・通信等で啓発に努めているが、一部の生徒によるマナー違反が散見された。 ・コロナ禍以降、再開された学校行事・生徒会行事では協働的に活動した。 ・いじめ事案が前期・後期ともに2件ほど発生した。「いじめ事案での組織的対応」等の研修会や対応マニュアルの整備により、迅速かつ組織的に対応した。	・報道でも「いじめ」による生徒の自死に至るような深刻な事案が起きているという事実がある。引き続き「いじめを許さない」という意識を指導・啓蒙すること。 ・SNSを媒介としたやり取りによる「仲たがい」から「一方的ないじめ」の態様をなすもの、あるいは不適切な情報を入手したり拡散する等の事故の未然防止に努めること。
改善方策	・4月年度当初に「いじめ予防と発生時の対応」について恒例的に校内研修を実施する。 ・SNSの不適切な使用、闇バイトに対する注意喚起は、引き続き口頭・リーフレット等の配布で予防に努める。	
進路指導	・3学年生徒の進路決定状況は卒業予定者60名に対し59名の決定。1名については次年度の公務員試験を目指す。 ・高校における進路決定までの個々の意欲を引き出すための工夫が不十分。 令和6年度からの総合探究での学びに期待したい。 ・模試や進学者向け講習の欠席者が散見された。学習が思うようにはかどらず、意欲が下がった生徒への対応が十分果たせなかった。	・公設民営塾との連携による個々の進路希望実現は、地元中学生の地元高校進学への大きな動機付けとなる。中学生の数は年々減少傾向であることから、町との連携による進路希望実現については、今後もHPや学校訪問等で積極的に発信する必要がある。
改善方策	・『総合的な探究の時間』を個々の進路指導につなげる。 ・進路相談の充実に向けて研修を継続して実施し、コーチングスキルを体得、個々の指導に活かす研修会の持続的な実施が求められる。 ・公設学習塾との連携により、模試のみならず、スタディサプリで生徒個々の学習状況進捗状況を共有し、生徒の目標を維持・向上できるよう働きかける。 ・令和6年度より、関係機関と連携を図り、ボランティアやインターンシップを『総合的な探究の時間』における探究活動の柱として実施する。	
健康安全指導	・足寄町のスクールカウンセラーの支援を有効活用できた。（必要に応じて教員間の情報共有を図る） ・緊急時のみならず、保護者や生徒への一斉の連絡事項については、メール配信サービスを有効活用した。	・今後ますます猛暑・酷暑の日が多くなると思われる。生徒の健康・安全を第一に対応し、危機管理体制に従って教職員が行動していただきたい。 ・今後、中学校と合同の避難訓練など、市町村立と道立の垣根を超えた一日防災学校の取り組みを期待する。
改善方策	・スクールカウンセラー、パートナーティーチャー等学校外部の教育力を活かした生徒理解・支援を継続する。 ・健康や安全及び防災に関する新たな課題に対して、研修や訓練を通して期待されることをよく理解し、適切な対応をする。 ・公式ウェブサイト、一斉配信メール、グーグル・クラスルームをそれぞれの情報の特性に応じて使い分けて運用する。	
信頼される学校づくり	・ICTを活用するなどして授業や評価の改善を図る教員と、工夫の見られない教員への評価の差は大きく厳しい。 ・「足寄町の環境問題」「一日防災学校」など町内外と連携した探究活動を取り入れ、コロナ禍より行事の充実を図ってきたが、学校評価は昨年度よりもほとんどの項目で低下した。 ・入学者募集をねらいとする広報活動を展開するにあたり、公式ウェブサイトのデザイン、学校案内やポスターの内容やデザインを検討し、中学校訪問を広い地域で実施した。	・町作り、町のイベントに大いに参加を望む。現状打破につながるような事を小さくても良いのでコツコツ積み重ねてオンリーワンを目指してほしい。 ・「信頼される学校づくり」を学校だけに依存せず、大人たちが高校生に足寄町の良さや課題を知ってもらう努力が必要である。足寄町・企業・個人事業者が高校生に発信することも求められる。 ・児童・生徒が上級学校の様子を見学、授業を参観する機会をつくり、地元の高校での様子を見る機会を作るのもよい。
改善方策	・「総合的な探究の時間」を足寄高校における魅力ある学びの柱とする。ネイバル足寄、足寄町、化石博物館、CSとの連携で、様々なボランティアや長期インターンシップを実施し、企業や地域の課題を体験から深く学ぶ。一時的な活性化策の提案にとどまらない、持続可能な社会づくりの観点で地学協働を目指す。	
組織運営	・委員会等の統廃合、人員の削減や業務の平準化を行ったが、明らかな時間外勤務の削減という効果は出なかった。（令和4年度時間外勤務平均49.2時間 令和5年度1月末現在50.9時間） ・100時間を超す時間外労働を行う職員への対応、手立ては急務である。	・いじめや不登校、保護者の対応など多岐に渡る危機管理を求められている。しかし、「先生」という職業の魅力もまた先生方が発信しなければ広く伝わらない。職場内での業務平準化を図りながら働き甲斐のある魅力ある職場づくりに努めていただきたい。
改善方策	・時間外勤務が全道平均や指標となる45時間以内を達成することを目指す。（業務の平準化を図る） ・スクールミッション、スクールポリシーの実現を軸とした組織体制をつくる。 ・ICTの活用を促進する。（紙媒体による課題提示から、電子データ及びBYODを活用した配信・回収等の積極的活用）	
教職員の資質向上	・教科横断的授業、探究活動等の集合研修を行った。 ・服務規律遵守に関わる通知や資料を活用した研修を実施し、啓発と注意喚起を継続した。また、職員会議、朝の打ち合わせ時の隙間時間を有効に活用し、いじめ、特別支援、ヤングケアラー等の校内研修を行った。	・教職員の不祥事は、学校のみならず、町の印象にも影響を与える。引き続き管理職がリーダーとなって、不祥事の防止・撲滅に努めていただきたい。 ・教員が日頃どのような研修の機会を設けているか保護者に発信してはいかがか。内容によっては教員と保護者合同の研修会を開催することも、教職員の資質を向上させる一助になると考える。
改善方策	・学校で教員がどのような研修と修養に努めているか知っていただくためにも、適切な内容で保護者・教員の合同研修会の開催を検討する。 ・初任段階教員の成長とミドルリーダーの育成のため、学校経営への主体的参画を更に促進する。 ・不祥事防止のための注意喚起、メンタルヘルスケア、タイムマネジメント等、教職員の資質向上のための研修を計画的な実施を継続する。	
公表方法	・本校ウェブページへの掲載、保護者向け文書の配布、学校評議員会、PTA役員会での説明	

3 添付資料

(1)令和5年度「学校評価」シート